

社協おだわら

題字：障がいのある人たちの仕事を社会とつなぐ「アール・ド・ヴィーヴル」
メンバーの萩原幹大さん

No.143
2024年
12月1日発行



小田原市社協イメージキャラクター
「夢・咲き福ちゃん」

小田原の風景・55
稲刈り後の田んぼと富士山

社会福祉協議会は、略して「社協（しゃきょう）」と言い、誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを進めるために設置されている民間の福祉団体です。



公式 facebook ページ 小田原市社会福祉協議会



人・学び・伝承で未来を創る

さまざまな人に支えられ、進められてきた昔からの住民による活動は数多くありますが、人生100年時代を迎えた今、それら続けるためには「活動の担い手不足」が大きな課題の一つとなっています。

地域の今と未来のため、そして「持続可能な地域社会」の実現のためには、限られた人に頼るのではなく、さまざまな世代や立場の皆が手を携え、チカラを発揮して課題を乗り越えていくことが求められています。

そのようななかで、特に若い世代を中心とした新たな「人のチカラ」も小田原の未来を拓く原動力として期待されており、子どものため、仲間のため、そして地域のために何かができるという意欲をもった人もたくさんいます。

そこで本号では、子どもの頃からの学びや体験を通じて創られる「チカラ」と「思い」を未来につなげられるような展開をめざしている団体などのイベントや取り組みを紹介します。

万年地区青年会連合の
サマーフェスティバル&
万年食育プロジェクト

相洋高校社会福祉部の
スマホ教室

片浦かるたプロジェクトの
「片浦かるた」



この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金と広告料により発行しております。

編集発行 小田原市社会福祉協議会広報編集委員会

〒250-0055 小田原市久野115-2 電話0465(35)4000 ファックス0465(35)6902 Eメール odawarashakyou@yhb.ne.jp



万年地区青年会連合 楽しんでつなげる未来



小田原ちょうちんまつりの「みこしパレード」に参加した青年会連合

●祭りでつちかわれた強いきずなの 万年地区青年会連合

気持ちや青年であれば、何歳でもメンバーになれる祭り好き集団です。コロナが明けて活動ができるようになったとき、地域のために自分たちができることをやっていたこと、各単位自治会にある青年会が集まって組織化されました。義務としての「やらされ感」ではない、自分たちも楽しむ「達成感」のある活動だからこそその継続と広がりをみせています。

●田植え～稲刈り～しめ縄作りを 一連で体験する「食育プロジェクト」

このプロジェクトは、当初は田植え～稲刈りまでの想定でしたが、氏神様の松原神社に氏子町内の子どもたちが作ったお米と刈り取った「わら」で作ったしめ縄を奉納するような体験もできたら、万年の子どもたちらしいプロジェクトになるのではと考え、今のかたちで実施しています。



①お田植祭で子どもたちが玉串を奉納



③秋には地域一丸で稲刈り

●「家族サービスも」の想いからの サマーフェスティバル

普段は自分たちばかり飲み歩いているので、たまには子どもやお母さんたちに楽しんでもらえるような家族サービスのイベントができたという思いがきっかけとなって、2018年から始まった「万年サマーフェスティバル」。各単位自治会や子ども会では、単独での夏祭りの開催が難しくなってきたところもありましたので、祭りをつながりの深い連合での取り組みとなっています。祭りのつながりに加えて、自営業のメンバーも多く、企画や物品の手配、会場の設営、協賛金集めなど、実行力と協力を得やすい土壌がありました。年々協賛だけでなくブース出店も増え、万年地区を中心に松原神社の氏子町内有志が参加しています。



数々の豪華賞品が当たる抽選会とジャンケン大会に、人で埋め尽くされる青物町商店街



ゲームに挑戦してもらえるおもちゃを選ぶ子どもたち



米不足のなかで夢のような、お米一俵（約60kg）の大当たり

●活動を通しての喜び・想い

一次世代へのつながりを実感

○青年会連合で事業をやってきて、祭りだけでなく地域行事に参加する若い子が増えたり、子どもが顔を覚えてくれて、挨拶をしてくれるようになってきました。
○小学生だった子が中学生になり、祭りを手伝ってくれたり、中学生だった子が高校生や大学生になり、青年会に入ってくれたり、つながってきていることが嬉しです。

リアルな防災訓練もできたら

○例えば、災害がおきて避難生活をするような事態になっても、お互いに顔みりであるのと、そうでないのでは安心感も違うので、自分たちが主体的に活動することで顔みえる近所づきあいができる地域になればと思います。
○コロナ禍の折、世間では一般的にためらうようなことでも、我々の世代は工夫して実行してきました。防災訓練も、もっとリアルな方法ができたら、... というような考えもあります。



地域への想いを熱く語るメンバーさんたち



相洋高校社会福祉部 高校生が地域を元気に



部員の生徒さんたち

●相洋高校社会福祉部の活動

相洋高校では、自ら考え動く力を持った生徒を育てるため3年間の学びはもちろん、部活動にも力を入れています。そんな部活動の一つである社会福祉部では、今回紹介するスマホ教室の他、北條五代祭りへの参加や共同募金への協力もしています。



●サロンでスマホを通して交流

久野地区の地域福祉コーディネーター会では、サロンの運営もしており、今年8月のサロンではスマホ教室を実施しました。講師として呼ばれた高校生たちは、スマートフォンの操作を通して、サロン参加者と世代を超えてふれあいました。



●参加した山田さん

わからないことが解決できてスッキリ。高校生とふれあって若返りました。

●部長の馬場さん

私の母親も部長でした。人とかかわる場面が楽しく、人の生活に役立つ手伝いができていることに、やりがいを感じています。

親切、ていねいに教えてくれて、楽しい時間を過ごせました。



●表紙の二人

参加した泉田さん（写真左）と部員の早坂さん（写真右）

将来は教員になりたいと思っています。人に教えることに充実感があります。



片浦かるたプロジェクト 新しい発見・広がる出会い



子どもから大人まで20人程で作成され、画風もさまざまな片浦かるた

●交流や昔を懐かしむグッズとしても

大切な人同士を、そして人と地域をつなぐきっかけになっているようで、次のような反響をいただいているとのことです。
・地域の人が会話をするきっかけになっている。
・地域外から越してきた人が絵札の場所を訪問し、地域への理解を深めた。
・ふるさとのさまざまな物語を、子どもや孫に伝える機会に役立った。
・若い頃に片浦を離れ、今は施設で暮らす親が購入を希望し、自分も親の故郷に興味を抱いた。



片浦小学校でも「かるた大会」で活用（2023年1月）

●片浦かるたとは

プロジェクトメンバーが地域に生まれ育った先輩たちに数年にわたるインタビューで伺ったこの地ならではの行事、遊び、生業、暮らし…。これらの宝物のようなお話や片浦の歴史をぎゅっと詰め込んだ作品です。

「片浦で育まれてきたもの、受け継がれてきたものを、次の世代へつなげていきたい」

そんな想いから、片浦小学校図書ボランティアや児童などが絵柄を手掛け、多くの地域の皆様、片浦に縁のある方々のご尽力、ご寄付、応援によって製作されました。

●プロジェクトメンバーの想い

地域の大大先輩からのお話を聞き、「これを残すことができるのは今しかない、ぜひとも残したい」と思うようになりました。そこで、この貴重なお話を多くの人にもっと身近に、もっと気軽に手に取っていただけるよう、お手元に置けるスタイルで作成しました。私たちは地域の海を見て山を見て、以前ここで暮らした先人たちの息遣いを感じます。ここには困難を乗り越えてきた先人たちの知恵と、大人から子どもまで思い切り楽しむ催しと、地域の安全を祈る風習がありました。人口減少や高齢化など、目まぐるしく変換していく今だからこそ、自分たちの足元に築かれてきた物語を知り、未来に向かって進んでいくことの大切さを感じます。

●購入に関するお問い合わせ

メールアドレス：kataura55sep@gmail.com

電話：080-4612-8420

帰山（きやま）さん

「きのこ苑 お山のたししょう」

小田原市根府川657及び

根府川郵便局でも販売

金額：1,500円



福ちゃんのいいね！

知っておくと市社協からのご案内

交通遺児世帯のために 次の支援をしています。

市内在住で交通遺児世帯の登録がお済みでない人は、ご連絡ください。

【支援の対象】

交通事故により、20歳未満のお子さんの保護者がお亡くなりになり、または重度障がいを負った交通遺児世帯として登録された世帯（自動車事故のほか、列車、船舶、航空機などの交通機関の運行上の事故も含みます）

【登録手続きの方法】

小田原市社会福祉協議会所定の申請書に必要事項をご記入のうえ、ご登録いただきます。申請には、事故証明書などが必要になります。

【支援の内容】

各種金品の贈呈 見舞金…登録されたとき
 支度金…小・中学校に入学、中学・高等学校を卒業するとき
 祝い金…20歳を迎えたとき
 その他、激励金や支給品の贈呈

父子世帯のために 図書カードを贈呈しています。

【贈呈の対象】

市内在住で平成18年4月2日から平成31年4月1日生まれのお子さんを養育されている父子家庭

【問い合わせ期間】 令和7年1月10日（金）まで

問い合わせ ☎ 35-4000 土日、祝日、年末年始を除く 8:30～17:15

要約筆記入門講座

聴覚障がい者を支えるコミュニケーションの一つ「要約筆記」について学ぶボランティア育成講座です。

【日時】 令和7年2月4日、18日、25日（全3回）13:00～15:00

【対象】 小田原市内在住・在勤の方（要約筆記の方法は手書きとパソコンがありますが、パソコンでの受講希望の方は、ノートパソコンをお持ちください）

【定員】 10名 **【講師】** 要約筆記サークルこゆるぎ

【申込】 ☎ 35-4000にて先着順 **【会場】** おだわら総合医療福祉会館

成年後見制度 定期相談会（相談料は無料）

制度をよく知りたい、利用するための書類の作成方法、親族後見人等として活動中の悩みなど、行政書士がお答えします。

【日時】 ①12月11日（水）・②令和7年2月12日（水） 14:00～16:00
 （相談対応時間は1組につき30分）

【定員】 各回とも6組（先着順）

【申込】 ①12月9日 ②2月7日までに電話 35-7770（成年後見支援センター）

【会場】 おだわら総合医療福祉会館

ありがとうございました

（令和6年7月1日～10月21日）

※問い合わせ ☎ 35-4000

ボランティアセンター寄付金	お名前（敬称略）	金額
	神奈川土建一般労働組合西相支部	21,200円
	磯崎 昇	54,889円
	わらはんどベーカリー みらいチケット運営事務局	3,000円
	明治大学校友会小田原地域支部	30,000円
	株式会社ユニバーサル技研	300,000円
	木月俊一	5,000円
	匿名（2件）	24,436円
	合計	438,525円

ボランティアセンター寄付品	お名前（敬称略）	品物
	豊間根慶子・山本優子	洗剤
	稲毛朋信	生花
	宗久寺	食料品
	小田原フェスティバル2024実行委員会	ODAWARA FESTIVAL2024 チケット
	山田勝彦	衣類
	退職公務員連盟小田原支部	タオル、雑巾
	井口晴一郎	日用品
	岸田麗子	絵本、おもちゃ
	小田原市更生保護女性会	雑巾
	森まち子	ホットカーペット
	匿名（11件）	介護用品、日用品、衣類、米、食品、他

市民福祉基金	お名前（敬称略）	金額
	税理士法人エナリ	100,000円
	匿名（1件）	100,000円
	合計	200,000円

交通遺児世帯支援基金	お名前（敬称略）	金額
	崎村調理師専門学校	50,000円
	合計	50,000円

各種寄付金品については、寄付者のご意向に沿い、目的にあった運用及び活用をさせていただきます。

小田原市社会福祉協議会

TEL & FAX

☎法人全体 TEL 35-4000 ☎福祉まるごと相談 TEL 35-4020 ☎成年後見支援センターTOMONI(ともに) TEL 35-7770
 FAX 35-6902 FAX 35-6902 FAX 35-7771

☎ケアプラン作成 TEL 35-8170 ☎ホームヘルパー派遣 TEL 35-8143
 FAX 32-4139 FAX 32-4139

交通アクセス

●バスご利用の場合 小田原駅西口から約10分
 久野車庫行き又は 久野原循環に乗り 市立病院前下車

●徒歩の場合 小田原駅から約20分
 足柄、井細田駅から約10分

おだわら総合医療福祉会館 1階
〒250-0055 小田原市久野 115-2

行政書士による成年後見サポートセンター

公益社団法人
コスモス成年後見サポートセンター

あなたのよりよい暮らしをサポートする成年後見制度
 「成年後見制度ってどんなもの？」
 「頼れる家族がいない、今は元気だけど……」
 そんな疑問をお持ちの方、私たち行政書士がサポートします！

連絡先行政書士 瀬戸賢二事務所 ☎0465-74-1433

福祉用具販売・レンタル・住宅改修

暮らしの中へ、人のこころへ

チャーリーケア

介護保険指定事業者番号 1472300308

TEL 0465-66-3300 FAX 0465-32-3560

営業時間 8:45～17:45 定休日 日曜・祝日
小田原市扇町3-14-21

秦野営業所 / 秦野市南矢名5-15-17 TEL.0463-86-6122

県西地区最多！
商品の展示、品揃え豊富
見て体験して お選びください

就職後の定着率100%* 福祉のプロと企業の人事に精通した専門家が個別サポート

精神・発達障がい に特化した 就職するための通所施設

まずはご相談ください。

就職までの
3ステップ

1 スキルアップ

2 職場体験

3 就職活動

就職

・1人1台のパソコンを実現
 ・職場体験で自信アップ
 ・マンツーマンの就活支援
 ・就職後も手厚いサポート

利用料 無料から

広々としたスペースでひとり一人に最適なサービスを提供

0465-20-4640

受付:月～土曜日 9時～18時

就労移行支援事業所 My Piece おだわら

開業(2022年6月)～2024年10月末